

一畑グループ海外インバウンド誘致施策～台湾～



2019年7月

きっかけ

平成25年出雲大社大遷宮＝年間入込客数 述べ36,809千人(前年+7,621千人)



以降大きな減少を予測



一畑グループ各社に大きな影響
ホテル、お土産物関連、電車、バス、タクシー



一畑グループ観光戦略会議

海外インバウンド検討委員会

国内では団体旅行から個人旅行が主になりつつあり、今後グループの得意分野である団体旅行の新たなターゲットが必要となる。アジア圏はまだ団体旅行が見込まれる。島根県は訪日客宿泊数が47番目であり今後増加が期待できる。行政のみではなく一畑グループも海外拠点を設け積極的に海外インバウンドの誘致を進め地域の活性化を図る。



台湾に拠点を設置

1. 島根県のインバウンドの宿泊数1位
2. 親日的である
3. 以前より現地旅行社と取引がある
4. 台湾の自転車メーカーが松江に進出し今後のツアーの企画などが期待できる

一畑グループ台北事務所開設

- 平成29年2月 台北事務所開設
- 平成29年4月 開設記念式典と現地商談会を開催
現地旅行社36社参加
- 平成29年10月 出雲空港より台湾に向けてチャーター便を運航(中華航空)
台湾から120名来県
- 平成30年3月 チャーター便を運航(中華航空)
- 令和元年10月 チャーター便を企画(中華航空)
現地商談会を開催予定



一畑電車と台鉄との交流

- 平成28年12月 台湾鉄道管理局を訪問 将来の友好協定締結の申入れ
- 平成29年7月 台湾鐵路管理局主催鐵路弁当節に出展
(4日間で15万人来場)
- 平成30年6月 台湾鉄道管理局鐵路節に参加
- 平成31年1月 友好協定について協議
- 平成31年4月 一畑電車・台湾鐵路管理局友好協定締結
- 令和元年6月 鐵路節に参加



台湾鐵路管理局と一畑電車株式会社とは、相互理解と信頼を深め、友好関係をさらに強化するため、この友好協定書を締結します。

台湾鐵路と一畑電車及びその関係企業とは、本友好協定に基づき、鉄道運輸事業のほかその他関連事業等、幅広い事業分野における交流を通じて、相互に連携・協力を深めることで、「地域社会への貢献」に努めます。



- ・乗車券の相互利用
- ・プロモーションビデオの相互配信
- ・イベントへの参加

課題

1. 一層のプロモーションの充実及び営業強化

平成30年度台北事務所の述べ手配数は、グループ1,476名、グループ外3,217名、合計4,693名
知名度を高めることが需要。

2. 台湾一出雲定期便の運航

広島空港発着の団体は四国方面へ流れることが多く山陰へ呼び込めていない。
「まず山陰から」の流れを「作る」ことが必要。

3. 台中、台南、高雄への営業のシフト

台北では団体旅行から個人旅行に移行しつつある。
まだ需要がある台北市以外への営業を広げていくことも重要。